

自動視野計HFA740

－ 緑内障の早期発見のために －

緑内障は眼内圧(眼圧)が上昇して網膜(目をカメラの構造に例えるとフィルムの働きをする部位)にある視神経を圧迫し、それが長く続くと視神経に障害を及ぼします。

この障害は、徐々に視野欠損をもたらし発見が遅れると失明に至る危険な病気です。緑内障は、初期ではほとんどの場合自覚症状を伴いません。

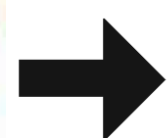
緑内障による視野障害は進行を防ぐことは出来ませんが、元に戻すことは出来ません。

より良好な視野を維持するためには早期発見、早期治療が非常に重要となります。その診断のためにも定期的な視野検査は不可欠です。

視野異常の進行状況



正常な視野
(右眼)



見えない部分が
鼻側に向かって少しずつ
のびていきます。



鼻側の視野の欠けが
大きくなり、さらに進むと
ほとんど欠損します。

その他に網膜から視神経、脳の視中枢にいたる各部位の疾患でも視野の異常が起こります。当院では、早期発見・早期診断が行えるようハンフリー自動視野計を採用しています。当視野計は、コンピュータにより一定のプログラムで行われるため、信頼性の高い客観的な検査結果を得ることができ、種々の眼疾患の診断補助や経過観察に役立ちます。



製造販売届出番号:13B1X00119001130